

令和5年度事業報告

協会の使命は、国土強靱化や良質なインフラ整備に寄与する活動を通し、社会に貢献することである。グラウト工事は、見えない世界を相手にしていることから、品質を担保し信頼性を確保していくことが協会の課題である。

協会にとって技術の信頼性確保と技術継承のための活動が事業の柱であり、協会設立当初から地盤の安定や止水性の確保に関する調査・研究開発事業やその成果の普及啓蒙事業、技術向上事業を本部と支部が協力し継続実施してきた。

I 令和5年度の主な事業活動

1. 薬液注入管理のデジタル化事業を柱として活動

建設産業界で進むICT施工やDXに呼応して、薬液流量管理をデジタル化するシステムの開発を進めるため、『アナログからデジタルに』を合言葉に令和3年10月に『DX推進委員会』を立ち上げた。

最新の情報通信技術を導入することで施工データのデジタル化とともに不正防止に関するシステムの構築を試み、昨年度は実現場で試験的に運用に着手した。

本システムの概要は流量計で計測した薬液注入データを集積し、インターネット回線を介して協会専用のクラウドに保存する仕組みです。施工データは会員各社及び工事ごとに保存されるため、協会員それぞれが施工データを整理し、現場以外でのデータ活用が可能になる。

施工データは暗号化処理され改ざんできない仕組みが本システムの最大の特徴で、チャート紙に記録された施工データと流量計から出力されたデジタルデータの同一性を補完するものである。

令和3年度はシステムの構成検討、基本設計、4年度は集積装置制作、クラウド・プログラム構築、5年度は3実現場での試験導入、全国8支部での説明会等を実施した。

6年度は、7年度のデジタルシステム事業化に向け、試行期間として新システム装置の拡大及び現場試験等を積極的に実施する。

【本システムの概要】

流量計で計測した薬液注入データを集積し、インターネット回線を介して協会専用のクラウドに保存する仕組みです。注入実施データは会員各社、工事ごとに保存されるため、協会員それぞれが、施工データを整理し、現場以外でのデータ活用が可能になる。データは暗号化処理され、改ざんできないのが本システムの最大の特徴で、チャート紙に記録されたデータと流量計から出力されたデジタルデータの同一性を保証するものである。

2. 有識者によるデジタルシステム検証委員会を設置

令和6年1月30日に有識者によるデジタルシステム検証委員会を設置し、関係機関等への提言内容について審議いただく事を考えております。

同委員会からは、特に段階的、時間軸を立てて対応させたロードマップの策定について強い要望があった。

(2) 薬液注入工事に係る施工管理等の見直し等に関する勉強会開催

薬液注入工法にかかる現状課題等の情報共有のため、薬液注入工事に係る施工管理等の見直しについて、令和5年6月8日に意見交換を行った。

国土交通省の参加者は、大臣官房、河川・道路・鉄道の担当者が出席された。

第 I 事 業

【 I 】 調査・研究開発事業

1. 調査・研究開発の継続実施
2. 薬液注入工事のデジタルシステム開発（別添資料）
3. 薬液注入工法の施工管理機器・チャート紙の認定等の継続実施
4. 薬液注入工法の施工実績に関する調査の継続実施

【 II 】 普及啓蒙事業

1. 薬液注入工事のデジタルシステムの説明会実施
全国8支部において会員への周知を図った。説明はDX推進委員会の委員が行った。
2. 薬液注入工事の模擬試験をケミカルグラウト（株）技術センターにおいて実施。
3. 協会活動の普及啓蒙
4. 関係行政施策への支援・協力
5. 講師派遣による普及啓蒙
 - (1) 日本下水道事業団研修センターが主催する地方公共団体担当者研修会に毎年度依頼を受けて講師を派遣し工法の普及啓蒙を図った。
 - (2) 技術説明会による普及啓蒙事業
発注者（国・地方公共団体等）、総合建設業、設計事務所及び会員等を対象に、注入工法を広く関係者に正しく理解をいただくため、平成9年度より毎年度全国の主要都市4～5箇所で開催してきた。令和2～3年度はコロナ事情により対面は関東支部のみの実施であったが、令和5年度は、東北支部、関東支部、北陸支部、中国支部の4カ所で実施。講師は技術委員会薬液注入部会の委員が務めた。支部が企画・運営し、本部は講師派遣と経費助成をした。
6. 構成員である関係機関・専門工事業団体等との意見交換を実施
7. 資料集等の改訂・発行及び頒布等の事業
注入工法に関する調査・研究開発の成果を広く正しく利用いただくため、小冊子の「資料集等」として発行・頒布・寄贈する事業で、令和5年度も継続実施した。
また、資料集の設計資料と積算資料は令和5年度も改訂・頒布した。
8. 工法に関する窓口相談対応事業
コロナ禍の中、国の機関・地方公共団体、総合建設業、設計事務所及び会員等から工法の設計・施工・管理に関する問い合わせが毎年多数あって、技術委員会薬液注入部会の委員が指導・助言等を行った。
9. 建設キャリアアップシステム(CCUS)の推進事業
グラウト技能者の能力評価基準については、建設キャリアアップシステム(CCUS)の本格運用に伴い令和2年3月に国土交通省の認可を得て現在運用中である。
カード取得前の既往職歴や、レベルアップ申請時における技能職種の区分について、

(一財)建設業振興基金が発行する「建設キャリアアップシステム 登録申請書コード表」によるところであるが、技能者の職務実態や積算に用いる設計労務単価との対比と、コード表の技能職種分類が分かりづらいとの声もあった。

レベルアップ認定を実施するにあたり、コード表の見直しと運用についての要望し、第一段階の改善を図った。

現状の技能職種の一部変更であるが、大分類 01「特殊作業員」、小分類に 17「グラウト工(薬液注入)」、18「グラウト工(ジェットグラウト)」、19「グラウト工(岩盤注入)」の職種コードを設置した。

大分類に「グラウト」の要望は、引き続きの要望となった。

担当は、建設キャリアアップシステム推進委員会である。

10. 支部活動

- ① 建設技術フォーラム 2023 に注入工法紹介タペストリー等を出展し広報活動を実施した。
- ② 支部地域の公共機関への要望活動を実施。
- ③ 現場の安全パトロールを実施した。

【Ⅲ】技術向上事業

1. 登録グラウト基幹技能者講習の継続実施

令和5年度第15回認定講習及び第10回更新講習を実施した。

(1) 令和5年度(第10回)更新講習(受講者:106名)

(2) 令和5年度(第15回)認定講習事業(受講者:19名)

講義12時間及び試験1時間のカリキュラムにより行った。

認定講習日 令和5年9月9日(土)・10日(日)の2日間。

東京会場のみで開催した。会場 ケミカルグラウト(株) 会議室

(3) 合格者 更新講習 106名、認定講習18名

(4) 令和5年4月1日現在の有資格者 826名

(5) 講習の委員会

- ① 講習委員会(合議制の機関) 試験問題の決定、合否判定
- ② 試験委員会 試験問題案の策題、講習当日の講師
- ③ 実行委員会 講習の事前準備、申請書類審査、講習当日の運営

2. 国家資格取得支援講習事業

「2級土木施工管理技術検定試験(種別:薬液注入)」の取得支援講習

当該検定試験の受験者を支援する講習会で、令和4年度は東京と大阪の2箇所で開催した。

【Ⅳ】その他の事業

1. 震災等の災害応急対策支援事業

2. 表彰・顕彰の候補者推薦事業

国土交通省からの候補者推薦依頼を受けて

令和5年度優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)候補者3名と

青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰候補者(建設ジュニアマスター)

2名を推薦している。

第Ⅱ 会 務

【Ⅰ】会員現況報告

令和6年4月1日現在の会員数 正会員66社 賛助会員54社・3団体

【Ⅱ】会議等の開催

協会の運営管理に関する重要事項を審議し決定するため会議等を開催した。

1. 第48回通常総会・同懇親会（令和5年6月16日（火）開催）
2. 監事監査及び監査報告（5月に監査、第1回理事会及び通常総会に報告）
3. 理事会 年5回（5月、6月通常総会当日）
4. 支部長会議（年度1回 9月に開催）
5. 支部通常総会（原則4月）
6. 支部幹事会（年度4～5回開催）
7. 業務執行理事会（6年4月開催）

【Ⅲ】委員会

1. 技術委員会 薬液注入部会（年4回開催）
2. DX推進委員会（年3回開催・専門部会1回）
実現場での試験導入（3現場）
全国システム説明会（8支部）
3. 登録グラウト基幹技能者講習
講習委員会（合議制）年2回開催
試験委員会 年3回と認定講習当日の講師
実行委員会 講習当日、申請書類審査、更新講習の採点他